

ORIENTAL STUDIES TRIPOS Part II

Japanese Studies

Wednesday 3 June 2009 13.30 – 16.30

J.10 MODERN JAPANESE, 2

*Candidates should answer **all** questions.*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Answer Book.*

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

**You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you may
do so by the Invigilator.**

- 1 Translate the following passage into Japanese (*kanji* and *kana*): [30 marks]

The history of life on earth has been a history of interaction between living things and their surroundings. To a large extent, the physical form and the habits of the earth's vegetation and its animal life have been moulded by the environment. Considering the whole span of earthly time, the opposite effect, in which life actually modifies its surroundings, has been relatively slight. Only within the moment of time represented by the present century has one species – man – acquired significant power to alter the nature of his world.

During the past quarter-century this power has not only increased to one of disturbing magnitude but it has changed in character. The most alarming of all man's assaults upon the environment is the contamination of air, earth, rivers, and sea with dangerous and even lethal materials. This pollution is for the most part irrecoverable; the chain of evil it initiates not only in the world that must support life but in living tissues is for the most part irreversible.

tissues 細胞組織

Rachel Carson, *Silent Spring* (1999), p. 22.

2 Summarise this passage in Japanese (about one and a half sheets of *genkō yōshi*). [35 marks]

日本の小説

海外に売り込む仕掛け必要

日本の小説が英語に翻訳されて海外の書店に並ぶ機会は、意外なほど少ない。東京の出版社で日本の小説の英文出版に携わる米国人の編集者が、敷居の高い英米市場の攻略法を考えた。

私はコロラド大学で、「OUI」（桐野夏生）を英訳したS・スナイダー先生に師事し、日本文学を学んだ。今は「八日目の蟬」（角田光代）などを英訳編

集しながら、日本の面白い作品を英米圏の人たちにもっと紹介したいと思っっている。その方策がいろいろと頭に浮かぶので、今回は大胆に提案したい。

日本の小説が英語に翻訳されにくいのは、まずは出版文化の違いが挙げられる。英米両国において翻訳作品の出版比率はとも低いが、米国は世界最大の出版市場だが、米国の読者はあえて日本の小説を読んでもようという発想を持たない。すしや日本食がもてはやされているのに残念だ。

日本の小説の英訳に取り組み数少ない編集者の私から見れば、日本には英語圏の読者が感動できる小説が

たくさんあると思う。例えば、乙一の「ZO O」は、リズムカルな文章に鋭い観察眼が込められて、意外性豊かな設定に驚かされる。「腑抜けども、悲しみの愛を見せる」の本谷有希子は、劇場的な発想からくる人物、舞台の表現が詳細で、展開も面白い。若手作家の作品は想像力が豊かで、ドラマ性、事件性が優れ、海外の読者に受け入れられやすいだろう。

英米の出版社にも問題がある。どの国でも知名度が低い作家の小説を出すのは冒險だ。自国の作品でも作

question continues....

(TURN OVER)

家のデビュー作は数千部売れるかどうかで、競争は激しい。そんな市場で、発音しにくい名前の、海外の未知の作家を売り出し、高い翻訳料を払って作品に賭ける余裕はない。海外文学の翻訳に興味がある編集者はいるが、翻訳は面倒だと二の足を踏むだろう。

さらに、日本文学が読まれるには「翻訳」という変換作業によって最初から英語で編集者に理解してもらうところから始めなければならぬ事情がある。ところが、日本語の小説を英訳できる翻訳者の数は非常に少ない。

優れた翻訳家を増やすに

はどうすればいいか。私は日本語を学ぶ英米の若者に、日本文学の魅力を知ってもらえばどうかと考える。今、世界では日本文化に興味を持ち、日本語を学ぶ人が増えている。そこで私は今年、川上弘美、北村薫らの短編を日本語で収めた日本語学習書の「Read Real Japanese Fiction」を出版した。

外資を受け入れて、日本の小説を海外で売る出版社が出てきてもいい。今、日本の出版業界に欠けているのは、積極的なプロモーションだ。日本文学の英訳情報充実させ、海外の出版社に売り込めばいい。日本のアニメーションや漫画が欧米で受け入れられた結果、「日本の小説も若者に売れるのではないか」「村上春樹に続く次の大物を探そう」という考えが海外の出版社に潜在的にある。

たとえば、「村上春樹につづく日本の小説10選 若手小説家10人」という宣伝を仕掛けてみたらどうか。世界に受け入れられる「ポスターレス」という点で村上作品を指標にすれば、海外の編集者が判断しやすい。

ソニートヨタという工業製品に続き、和食や漫画が国際化した。次は、日本文学の番だ。小説という日本の精神文化の世界に、海外の文学ファンを呼び込むのではないか。

Asahi Shimbun, 19 July 2008, p. 13.

3 You have been asked to produce a report on the effect of television on young people. You managed to interview 100 families, asking them what kind of influences – good or bad – they thought television had. Write a short report in Japanese (about one and a half sheets of *genkō yōshi*) on the conclusions reached. [35 marks]

END OF PAPER